

「年代・性別に応じた不祥事防止」の取組

取組の内容

相馬市立中村第一小学校

1 4つの相談窓口の設置

先生方の年齢層が若くなってきている本校の職場の状況を踏まえ、年代や性別に応じた男女2名ずつ計4名の「サービス倫理相談窓口」を設けた。教職員がいつでも誰かに相談できる職場の雰囲気づくりを醸成し、教職員の孤立化を防ぐ。

2 運転や事故対応に不慣れな教職員への対応

(交通事故発生時対応マニュアルの配付、常備)

近年、若い教職員が増えている。そのため、万が一、交通事故の加害者や被害者になった場合でも、怪我人への対応や管理職への報告など、適切かつ安全に対応できるように「交通事故発生時対応マニュアル」を配付し、常に自家用車に入れておき、いつでも使えるようにする。

成果と課題

交通事故発生時対応マニュアル

相馬市立中村第一小学校

1 現場での対応 …落ち着いて、次の対応をする。時刻を記録する。

① 車を安全な場所に移動 (安全確保)	
② 負傷者の有無と負傷の程度を確認 (人命第一)	
③ 負傷者がいる場合は、応急処置	↓時刻
④ 必要に応じて救急車(119)を要請	…(:)
⑤ 警察(110)に事故発生の通報	…(:)
⑥ 校長に連絡 …(:)	
校長の指示を受ける	
不在時は教頭に連絡	
⑦ 家族に連絡	
⑧ 保険会社に連絡	
⑨ 警察の事情聴取に立ち会う	…(:)
⑩ 必要事項をメモ、可能な範囲で記録	
⑪ 校長に第2報 →指示を受ける	…(:)

○ 今のところ、教職員からの相談はない。引き続き、管理職が相談窓口になっている教職員と情報共有を行い、教職員一人ひとりに困り感がないか様子を見守る。

○ 軽微な交通事故に対して、教職員各自が適切に報告、対応できた。実際に事故等を起こした場合でも、いつでも、どこでも、適切かつ安全に行動できるよう、交通事故発生時対応マニュアルを自動車等に常備し、ゆとりをもって日常生活を送るとともに、危機管理意識を醸成する。

● 警察署の方など各分野の専門家を講師招聘して最新情報を共有したり、予防策を学んだりするなど、より客観的な視点を重視した教職員研修を実施していきたい。